

市民と市役所が

# ツナガル通信

発行日：平成29年3月23日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎2階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589

## Contents


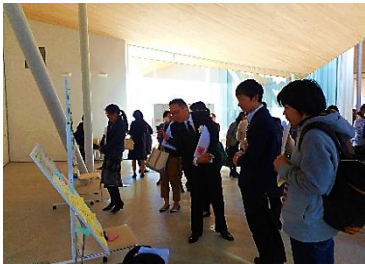

- >> 第一回おかやま協働のまちづくり賞
- >> 市民協働推進モデル事業 Vol.7

Vol.22

### 「第一回おかやま協働のまちづくり賞 最終審査&表彰式」開催しました！

「おかやま協働のまちづくり賞 最終審査&表彰式」が初めて開催されました。20組がエントリーし、第一次審査で選出された入賞5取組についてプレゼンテーションを行い、岡山市協働推進委員による審査と来場者の投票により、大賞を決定しました。今回のテーマは「笑顔」と「場づくり」。未来を担う子どもを取り巻く課題に多世代で取り組まれているものが多くみられ、多様な主体による協働事例に学び、成果を称え合う機会となりました。

大賞を受賞した「病気の子どもたちが安心できる居場所づくり」は、入院中だけでなく、退院後も含め継続的な支援が必要なが社会的に知られておらず、病気の子どもたちが安心して勉強や遊びのできる環境がないという課題解決への取組で、抗がん剤治療をしている小学生の「だって勉強しているときは病気のことを忘れられるんやもん」という事例も紹介されました。また、会場には各取組のパネルが展示され、プレゼンテーションの後、来場者と発表者での質問・交流タイムが設けられました。

日時と場所	2017年2月19日（日）13:30～16:30 場所：Junko Fukutake Hall（岡山市北区鹿田町）
参加人数	170名（入賞団体関係者88名、協働推進委員14名、地縁団体7名、市議会議員・市職員・公民館職員12名、NPO法人5名、学生3名、事務局16名、その他25名）
感想 （アンケートから）	（良かった点）「地域の人々の地域づくりに対する思いが詰まった活動内容が聞けて大変ためになった」「司会、音楽、手作りの看板など会場の雰囲気があたたかかった」「エントリーした他の15団体の取組も紹介されて良かった」 （改善点）「子ども対象の取組ばかりだったので高齢者を対象とした取組もあるとよい」「今後は参加者をもっと増やして多くの人に知ってもらいたい」 （期待）「発表で終わりではなく、継続的に経過報告もして欲しい」
写真	 取組のプレゼンテーション  取組のパネルを見る来場者  大森市長と入賞団体の皆さん

### お知らせ

岡山市役所本庁舎1階市民ホールにて3月30日(木)、31日(金)、4月3日(月)、4日(火)に平成28年度の協働の取組をパネルで紹介する「おかやま協働のまちづくり展」を開催します。是非お立ち寄りください。

## 平成28年度「市民協働推進モデル事業」のご紹介 Vol.7

岡山市各課と市民（NPO法人、市民活動団体など）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成28年度事業の取組をご紹介します。

### 『公民館への太陽光発電の設置と環境学習による持続可能な社会の推進事業』

認定特定非営利活動法人おかやまエネルギーの未来を考える会 × 環境保全課・中央公民館

地球温暖化は年を追って深刻化しており、未来世代に大きな脅威をもたらす事態となっています。岡山市域でも自然エネルギーの導入などを通じて二酸化炭素の排出をゼロに近づけていくことが求められています。

本事業では市内2つ（岡輝・岡西）の公民館を拠点として、地域住民を対象とした環境学習を開催するとともに両館の屋根に啓発のシンボルとなる「市民共同発電所」を設置しました。環境学習の参加をきっかけに家庭・地域で実践できる「せっけんづくり」「ごみの分別」など環境保全の取組が活性化しており、さらに他地域へ波及していくことが期待されます。

### 協働のすすめ～岡山市職員インタビュー～

環境保全課 出井 要さん



#### Q1：協働事業の実施前に期待していたこと、不安に感じていたことなどがあれば教えてください。

地球温暖化問題の重要性についての理解は進んでいるが、行動の効果が実感できないことなどから、市民の取組がなかなか広がっていません。また、身近な省エネや再生可能エネルギーの導入などの対策だけでなく、消費行動をはじめとする社会経済活動が世界の温暖化の進行に大きな影響を与えていることについても理解が進んでいません。

そのような中、生涯学習の場である公民館でモデル事業を実施することにより、新しい切り口で市民に地球温暖化問題を理解し行動に移してもらう機会になることを期待しました。この事業は認定NPO法人と公民館が協働するだけでなく、公民館を利用する市民をどれだけ巻き込むことができるかが重要であり、その点に不安を感じていました。

#### Q2：事業を通じて協働の効果は感じられましたか？

認定NPO法人による太陽光発電設備の設置と専門的な環境教育の実施、公民館職員の地元の方々との人脈により、一方通行の環境教育ではなく、認定NPO法人、公民館と地域住民も協働して参加型の環境教育を実施することができ、当初期待していた効果を十分に感じることができました。

また、公民館においては、新しい参加者が増え、エネルギー問題を含めた地球温暖化問題に関心がある人が多いことも分かり、今後の広がりを強く感じることができました。

公民館で環境教育を実施することで、各公民館がそれぞれ取り組んでいる健康、国際理解、生物多様性等の地球温暖化対策との関連が深い学びと関連付けを強化することにより、ESD活動の推進を図ることも目標として掲げているので、その目標に向けた一歩を踏み出すことができたと思います。

#### Q3：これから協働を実践される方々（市民・行政職員の双方）に向けてメッセージをお願いします。

協働で実施するには、市民団体と担当課の温度が同じでないと進みません。自分たちが何をしたいか、何ができないのかをしっかりと整理して、協働する相手を探すことが重要です。

モデル事業で実施した事業は、私たちが実施した事業もそうであるように単年度で終わることはないと思います。事業の継続、更には広がりができる仕組みを構築することが必要であり、そこがモデル事業の成果を問われるところだと思います。